

<様式5> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：新規山菜類の選定と栽培技術の確立（H20～23）

担当者名：石川寛人、窪田 哲

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	ツリガネニンジンとヤマウドの実生による栽培技術、タラノキの粗放栽培技術の開発等成果情報がまとめられ、目標の達成度は高い。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4 / 5	植え付け後の管理が省力的であり、高齢者等が取り組むのに好適である。直販所での人気も高いことから、普及制・波及性は期待できる。
3 研究の発展性	4 / 5	成果の有用性から考えても研究の発展性は高い。得られた研究成果の実用化に向けて、技術としての完成度を高めてほしい。
4 研究課題選定の妥当性	4 / 5	直販所等での人気が高い山菜について、効率的かつ省力的な栽培管理法を開発するという課題の設定は妥当性があり的確である。
総合評価	4 / 5	山菜の生産額は他作物に比べて高いとは思えないが、本県のように中山間地が多いところでは、耕作放棄地の有効利用、品目の組み合わせによる労力分散等の観点から評価できる。労力も初期投資も少なくて済むので高齢者等に適する。農家圃場での実証試験等を通じて実用的な技術を確立し、地域ぐるみで普及・指導に取り組み、特産品化を目指して欲しい。また、品目の拡大も検討する必要がある。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今回得られた山菜類の研究成果を活用して、中山間地における直売所向けの品目として導入が進むよう、普及組織と連携しながら実証栽培を実施し、実用的技術としての確立や特産品化を図ってゆく。今後も、有望品目の検索や、冬期に労力分散が可能となる促成栽培技術等について検討してゆきたい。

<様式5> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：原油・資材費高騰に対応した低コスト生産技術の確立（H21～）

小課題名：コショウランの省エネルギー栽培技術の確立（H21～23）

担当者名：藤木俊也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	コショウランの栽培温度の調節による花茎発生抑制、生育向上技術の開発等、有用な成果情報がまとめられ、目標の達成度は高い。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	原油や生産資材の価格が高騰するなか、燃料費を大幅に節減できる技術は極めて有用であり、普及性・波及性は高い。
3 研究の発展性	4 / 5	温度調節だけでなく、光条件、CO ₂ 施用等の検討を行うことにより、さらに低コストで生産性を向上させる技術の開発が期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	県内花き生産額の第1位を占めるコショウランの生産コスト低減の課題は高い農家ニーズに基づいて選定されており、妥当性は高い。
総合評価	5 / 5	秋冬期の変温管理により燃料費を大幅に節減できる栽培技術が開発されたことは極めて高く評価できる。タイムリーな研究成果である。これらの研究成果を基に、実用的な栽培体系の見直しを期待したい。また、生産者の協力を得ながら、主力品種について実証試験を行い、有効な技術であることを積極的に宣伝・普及してほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今回得られた温度調節の成果を、普及組織および生産者との連携を図りながら、現地および試験研究機関で実証試験を実施し、栽培体系を見直すなど、迅速な普及を図る。また、実証試験で生じた問題点は試験研究機関にフィードバックし、補足試験や現地試験により解決してゆく。今後さらに、光条件等についても検討を行い、低コスト安定生産技術の開発を目指してゆく。

<様式3> 総合農業技術センター試験・研究課題中間評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：普通作物の優良品種選定と原種生産（M33～）

小課題名：水稲、麦類、大豆品種の比較試験（S28～）

担当者名：上野直也、石井利幸

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究の進捗度	4 / 5	多収で子実品質が優れる青大豆「あやみどり」が特色ある品種に選定され、多収でいもち病に強い酒造好適米「夢山水」が奨励品種に選定されるなど、研究の進捗度は高い。
2 研究内容の妥当性	4 / 5	本県におけるこれら品目の生産額は、とくに小麦・大豆について高いとは言えないが、基本的な品目であり、またこれら優良品種を選定する研究は基盤的で重要な課題である。
3 研究成果の期待度	3 / 5	小麦、大豆、酒造用米等について生産額は大きくないが、特徴のある品種の選定が期待される。栽培面積が比較的広い水稲についても有望な品種の選定を期待したい。
4 研究継続の必要性	4 / 5	本県におけるこれら作物各品種の適応性を調査し、優良品種を選定することは重要であり、これら作物の収量・品質を安定的に確保するためには、本研究の継続が必要である。
総合評価	4 / 5	水稲、小麦、大豆について、それぞれ有望な品種が選定されつつあり、優良な奨励品種が続いて選定されることを期待したい。ただし、多大な労力と長い期間を要する研究であるため、優先順位を付けるなど、効率化を図りながら進めてほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置：

今後も、生産者及び実需者のニーズを把握しながら品種選定試験を継続し、試験の実施にあたっては、水稲を中心に特色ある品種を選定するため試験項目の重点化や、他県の試験データを有効活用することなどにより効率化を図ってゆく。

